“40年来の愛と友情をこめて” 備前焼の壺を寄贈

これまで27回も海士を訪れているという岡山県玉野市在住の陶芸愛好家、岡本啓介さん（写真、中央）が、自ら制作した備前焼の壺を海士町役場に寄贈してくださいました。

岡本さんは約40年前に海士町を初めて訪れ、山斗金造さん（写真右）が当時経営していた民宿に泊まったことから山斗さんと大変親しくなりました。「人も自然も海士町が大好きになった」という岡本さんは、それ以来、足繁く海士に通っています。

「何度も来てくれるのは本当にありがたい。いつも仲間をたくさん連れて来てくれるので観光振興にもつながっている」と語る山斗さん。山斗さんは岡本さんより10歳以上も年上ですが、「年齢なんて関係ない、ハートでどんとこい。彼はもう、『ちんかも』。愛情をささげれば関係は長続きするわね」と嬉しそうに語っています。

岡本さん、誠にありがとうございました。今年の夏もお待ちしています。

※壺を寄贈していただいたのは平成26年8月です

古道具やさん創業祭2015

2月11日（水）、あまマーレにおいて、集落支援員が運営する古道具やさんの創業祭が行われました。今回は隠岐島前高校の生徒もボランティアで多数協力し、野菜販売やたこ焼き屋台、カフェコーナーなどで活躍していました。

今回初めて、有志による釣り具専門のリサイクル＆ディスカウントコーナー「AMA FISHING SHOW 2015」が登場して好評を博したほか、遊戯室で行われた第2回チャリティーオークションも大賑わい。服や日用雑貨から台所用品まで約120点が出品されました。なお、オークションの売上げは全額赤い羽根募金に寄附されました。

子どもから大人まで好評だった AMA FISHING SHOW

どすこい大相撲！

平成27年の大相撲初場所は、横綱白鵬が13日目に早くも優勝を決め、終わってみれば15戦全勝で歴代最多優勝回数33回の偉業を達成、その強さはまだ他の追随を許しません。

海士町出身力士、海士の島と宇野は、それぞれ結果によっては自己最高位が見える番付で、今年最初の場所に臨みました。

三段目の海士の島は、序盤は黒星が先行、中盤で2勝2敗としましたが、その後3敗を喫し、2場所連続の勝ち越しとはなりませんでした。

序二段に番付を上げた宇野は、早々と勝ち越しを決め、昨年の怪我からの本格復帰以降、2場所連続で勝ち越し、来場所は自己最高位近くまで番付を戻しそうです。

3月の大阪場所では学生相撲等で名を馳せた、力のある力士たちが新たに角界入りし初土俵を踏み、競争が一層激しくなります。

（相撲ウォッチャーNGSX）

大相撲1月場所　郷土出身力士星取表

	初日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	中日	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	千秋楽
海士の島（八角）	●	—	●	—	○	—	○	—	—	●	—	●	—	—	●
宇　野（八角）	—	●	○	—	○	—	—	○	—	○	●	—	—	○	—

○：勝ち　●：負け　—：取り組みなし　や：休み

成績：【海士の島】2勝5敗　（三段目東41枚目）
【宇　野】5勝2敗　（序二段西66枚目）

3月場所

8（日）～22（日）　於　大阪府立体育会館
三段目西63枚目　海士の島（八角部屋）
序二段西23枚目　宇野（八角部屋）

町の未来は私たちが担います！

第11回海士町子ども議会

今から30年後の海士町はどうなっているか、どうなっていてほしいか。今年の取り組みは、ここを原点としてスタートしました。

2月13日(金)、役場大会議室において、海士小学校、福井小学校の6年生12名が、町政に対する提案を力強く行いました。

今年で11回目の子ども議会。諸先輩方の行ってきた提案もほぼ出尽くした感もある中で、新たな時代に突入したといえます。その取り組みの様子を紹介します。

【学習の経過】

今年度の始動は9月29日でした。まずは町長と顔合わせ。この日は海士町の「ないものはない」フレーズの含まれた安倍総理の所信表明演説が行われました。一緒にテレビを見ながら町長から「本気で頑張ってほしい」と檄を飛ばされ、決意を新たにしたのでした。

その後数回の合同学習会を重ね、各々自分のテーマを模索していきました。11月10日～11日は集落支援員とともに、支援の実際を学び、「地域が求めていること」と「自分たちにできること」の接点探しを上方3地区で行いました。

今年の6年生には上方の子がいません。このことが海士の課題発見にはよかったのかもしれません。土地勘のないところで、保々見、知々井、日須賀の方々がどのような暮らしをしておられるか、どんな思いをもっておいでかを知り、とても新鮮だったようです。

【中間発表会は高校生アドバイザーと】

年明け早々の1月9日、役場各課担当の方を招いて、自分の提案に関するヒアリングを行いました。これを受けてさらに提案を練り、1月20日には島前高校から3人の先輩に来ていただき、中間発表を行いました。

アドバイザーはいずれも高校3年生。しかも地域に関わる実践を積み上げてきた仲島さん、横棚さん、柳田さんの3人でした。子どもたちの提案の良いところを的確に褒めるばかりでなく、自分たちが実際にやってみてこうだったという経験を熱く語ってくれました。子どもたちは改めて「この島にとって何が必要か」という視点から、自分の提案を見つめ直すことができました。

【議会当日の様子】

前半は村尾天智さん、後半は永原遥太さんが、それぞれ議長を務めました。12名だれもが、落ち着いた口調で、しかも表情豊かに自分の提案を堂々と行いました。そのすべてを諳(そら)んじていて、もしものために用意してある机上の原稿へは目もくれず、しっかりとした自分の言葉で述べる子どもたちでした。

町長も終始、子どもたちの提案を真摯に受けとめ、熱心に答弁してくださいました。「君たちの考えたことを決して無駄にしない。必ず町政のヒントにしていきたい」と最後に述べられた感想に、どの子も満足そうでした。

高野議会事務局長からは、「子ども議会を終え『笑顔』で帰っていく子ども達の姿はキラキラと輝いているように見えました。本当に素晴らしい提案発表だったと思います」とのコメントをいただきました。

末尾になりましたが、子ども議会にご協力いただいた関係各所の皆様、本当にありがとうございました。記して感謝申し上げます。

提案の詳細については後日「記録集」にまとめますので、そちらをご覧ください。

（教育総務課　指導主事　福間　敏之）